

おらほ！のまちづくり

目次

▶宮城総合支所 (P.2) :

自然を守り、歴史文化を
地域活性化活動に

～くよみ郷土研究会～

▶宮城野区 (P.3) :

地域を元気に！みんなで育てる
「のりあい つばめ」

～燕沢乗合タクシー運営協議会～

▶太白区 (P.4) :

三神峯の“桜縁”が結ぶ『遊びと
学び』ここ西多賀に賑わいを

～西多賀まちづくり推進委員会～



お知らせ

仙台市協働ナビゲーションサイト「できるよ！仙台」をご活用ください！

■「できるよ！仙台」とは？

仙台市では、魅力的で住みやすいまちを目指して、多様な主体の協働によるまちづくりを推進しており、地域課題の解決やまちの魅力創出に取り組む市民や団体の皆さまに対してさまざまな支援を行っています。



その一つとして、市民活動や協働に関わる市民や各種団体、企業等の皆さまの活動に役立つ情報を総合的に案内する仙台市協働ナビゲーションサイト「できるよ！仙台」を開設し、情報発信を行っています。

「できるよ！仙台」では、仙台市の支援制度や施設・相談窓口の紹介のほか、活動を充実させるためのヒントとなる活動事例やデータ・手引きを掲載するなど、これから活動を始める方からすでに活動を行っている方まで幅広く活用していただける情報を掲載・発信しています。



また、仙台市の協働によるまちづくりの考え方や、これまでのあゆみなどを、コンパクトに見やすくまとめたリーフレット「協働によるまちづくり 仙台」も「できるよ！仙台」でご覧いただくことができます。ぜひアクセスしてみてください。

■サイトURL <https://www.kyodonavi-sendai.jp/>

(スマートフォン、タブレットでも閲覧できます)

■お問い合わせ 市民局市民協働推進課企画係 (☎ 022-214-1089)



「できるよ！仙台」
QRコード

発行

- 宮城総合支所まちづくり推進課 ☎ 022-392-2111 (代表)
- 宮城野区役所まちづくり推進課 ☎ 022-291-2111 (代表)
- 太白区役所まちづくり推進課 ☎ 022-247-1111 (代表)
- 市民局地域政策課 ☎ 022-214-6129 (直通)

自然を守り、歴史文化を地域活性化活動に〜くよみ郷土研究会〜

▶「くよみ郷土研究会」活動のきっかけ

研究会の名前になっている「くよみ」とは、「国見ヶ丘」「吉成」「南吉成」の頭文字をとっており、この3地区をメインフィールドとして活動を行うという意味です。

吉成地域は緑の多い地区です。この地区には仙台市立仙台青陵中等教育学校の学校林「青陵の森」があり、身近な緑を後世に残したい地域の有志が同校と協力し、この場所の整備を行うようになったことがくよみ郷土研究会発足のきっかけとなりました。

研究会の事務局は吉成市民センターに置いて活動しています。地区内を横断している古道「芋沢街道」・「中山街道」沿線は、宅地開発により分断されていますが、現在でも所々に歴史を感じさせる史跡等が残されています。研究会では、これらを風化させずに残したいとの思いでその研究にも取り組んでおり、この研究や街道散策会などを通して、市民の皆さんに魅力を伝える活動を行っています。

▶自然の素晴らしさを感じる「青陵の森」

青陵の森は、旧仙台女子商時代から学校林として使用されていた約4,000㎡もの広大な森です。四季折々の草花や野鳥のさえずりを楽しめる自然の空間は、生徒たちの豊かな心を育てることにもつながります。



↑青陵の森での整備作業の様子

しかし、倒木の処理や草取りなどの整備には大変な労力が必要となります。研究会では学校と連携し、学校林の保全のために保護者などと協力して整備の一助となるように努力をしているところです。

このような定期的な

整備は森の中の散策路についても行っており、現在では、青陵の森における自然観察会などを開催して、研究会の活動目的である、自然を守り、育て、活用するための取り組みを進めています。



木村代表



また、令和2年度の事業としては同校の生徒が自然への理解を深めることができるように、「樹木名プレート」の製作・取付や、パンフレットの作成・配布も行いました。

研究会の木村代表はこの活動について、「生徒や地域の方々にとって、身近な森になることを願っています。」と語ってくれました。

▶歴史を知ると今がわかる

くよみ郷土研究会のもう一つの活動が、地区内を横断している古道「芋沢街道」・「中山街道」の研究です。

「芋沢街道」・「中山街道」の道々には、現在も神社や石碑などの歴史的な資源が多数存在しており、これらのいわれや経緯について調査しています。

最近では国見4丁目付近、仙台藩城下町に続く郷地域としての境界に置かれている石像石碑群の「瘡瘡神」に着目しています。



また、藩政時代の歴史資源としては、「弁財天・臨濟院跡」、「伊達藩火薬製造地ノ跡」や藩祖伊達政宗

公が城下を見下ろしたといわれる「御覧場」などが残っています。

現在、研究活動は街道の踏破による歴史資源の確認が主となっており、研究成果や踏査の状況については、市民センターまつりなどでの発表や、会報「くよみ通信」でお知らせしています。今後も、こうした貴重な歴史資源を生かした地域づくりが期待されます。



↑皆さん熱心に耳を傾けています

活動の記録

「青陵の森整備観察活動」毎月1回

「芋沢街道・中山街道を歩く調査活動」

毎月1回

市民センター事業との連携

市民センターまつり等での発表 随時

「青陵校文化祭出展」年1回

事例のポイント



地区への愛着を持つ会員と、地区内の拠点である学校やその生徒、保護者、OBたちが協力することによって一体感が強まり、地域・世代を超えて地域を知ろうとする力になっています。

毎月発行している「くよみ通信」で活動内容を地域に積極的に広報している点も、地域の一体感の醸成に貢献しています。

地域を元気に！みんなで育てる「のりあい つばめ」～燕沢乗合タクシー運営協議会～

▶高齢化に伴う地域の課題

燕沢地区は坂道や狭い道路が多いために、地区内に路線バスが運行していませんでした。そのため移動手段を持たない高齢者にとって、買い物や通院などの日常生活が大変だという声が多く、このままでは、高齢化が進む10年後、20年後の燕沢は高齢者が住みにくい地域になってしまうという危機感がありました。そこで登場したのが地域主体の乗合タクシー「のりあい つばめ」です。



▶地域団体が連携して取り組む

この課題については行政との地域懇談会で取り上げ、検討をしましたが、当初簡単には解決策を見つけれませんでした。その後、仙台市で地域交通導入を目指す地域を支援する制度がスタートしたことを受けて、乗合交通の導入に挑戦することを決め、主に高齢者の足を確保するためであることから、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターと連携して進めることとしました。

まず、平成29年に「交通検討会」を立ち上げ、運行ルートや停留所、時刻表、事業収支計画を検討しました。その後、老人クラブや社協サロンでの説明会を行いながら、平成30年10月に10人乗りの



↑ 運営協議会で地域の意見を取りまとめます

ジャンボタクシーで試験運行をスタートしました。

令和2年7月には「燕沢乗合タクシー運営協議会」を設立し、体制を強化したうえで、令和3年4月からの本格運行を目指しています。

利用者を増やすために「つばめ丸グッズ」のプレゼントや買い物・お食事ツアーなどの企画を積極的に行い、利用者からは買い物やお出かけに気軽に使えるという声をいただいています。

現在は、70歳以上の運賃が正規運賃の半額の100円とさらに利用しやすくなり、「のりあい つばめ」は日常的な地域の足として定着してきています。



↑ 買い物・お食事ツアーに利用しました

運営協議会の大西会長は、これまでの活動を振り返り、「大切にしていることは、多くの住民から意見を聞き地域全体の意見を集約すること。逆に多くの要望・意見があるために判断が難しい時もありますが、その場合は実現可能性や採算性に照らして判断しています。また、町内会長など地域の協力が不可欠ですが、地域の力だけで足りないところは、市の担当部署やコンサルなど外部の力を借りなければなりません。この課題に取り組み始めてから10年以上が経過しますが、地域と行政の間には計画を実現するスケジュールの考え方に違いもあります。地域の課題に対しては、諦めないで粘り強く活動していくことが大切だと感じています。」と話します。



大西会長



つばめ丸

「のりあい つばめ」は誰でもご利用いただけます！

- 運行ルート：仙台オープン病院⇄燕沢地区⇄JR東仙台駅
- 運行曜日：月・水・金曜日（祝日、お盆期間、年末年始は運休）
- 運賃〔1回乗車（片道）〕：大人200円（中学生以上）、子供100円（小学生以下）
- 高齢者・障害者等割引運賃：100円（高齢者は70歳以上）

※詳しくは仙台市都市整備局公共交通推進課へお問い合わせください。

（都市整備局公共交通推進課 ☎022-214-8359）



事例のポイント

地域の課題について、様々な団体が連携して取り組むことで、その地域にとって、最も適した解決方法が何かを検討し、実践することにつながりました。

三神峯の“桜縁”が結ぶ『遊びと学び』ここ西多賀に賑わいを ～西多賀まちづくり推進委員会～

▶住民に自分のまちをよく知ってもらうために

「西多賀まちづくり推進委員会」は、平成31年2月に発行した「西多賀まち物語」を活用し、地域の人に自分の住んでいる地域を知ってもらい、地域の活性化につなげるために設立されました。

西多賀地域は、古くから人々や物資が行き交う場所で、桜で有名な三神峯公園や仙台最古の多賀神社など他地区に誇れるものが沢山あるところ。しかし、地域住民にはまだその魅力が十分に伝わっていないと考え、自分たちの地域に素晴らしいものがあることを知ってもらうことから始めようと考えています。

委員会のメンバーは、現在40～80代の幅広い年代の19名で構成されています。委員会は3つのグループに分かれており、子供関連グループ、公園史跡関連整備グループ、まち等整備関連グループに分かれ、それぞれのグループで企画を考えています。

▶三神峯公園での活動



↑ 三神峯公園に咲く沢山の桜の木

その一環として、三神峯公園をより魅力ある公園とするため、いろいろな取り組みを行っており、令和2年は約150本の桜に手作りの樹名板を取り付ける活動をしています。樹名板は世代間のつながりを意識し、地元の小中学生と大人の共同作業で仕上げています。小中学生が桜の品種と日付、学校名、氏名を記入し、大人が表面にニスを塗り完成させています。

令和2年12月末までに160枚の樹名板の作成と取り付けが完了しており、令和3年2月末までに西多賀地区の2つの児童

館と1つの施設の子供たちと、残り20枚の樹名板の制作を行う予定です。副会長の椎野健作さんは「子供たちには、樹名板の作成を通じて、三神峯公園の桜に愛着を感じ、地域の人たちの桜への想いを受け継いでもらいたい」と話します。

また、令和2年4月の桜の開花時期には、花のプランターを三神峯公園内の入口や詰所前、広場に設置しました。来場者に好評で、桜の花とのコントラストを楽しめたとの声が多くあったそうです。

桜の時期が終わった後は、地元商店街にプランターを提供し、花が咲いている期間は店頭などに飾ってもらい、地元の方々に喜ばれたとのこと。

令和3年度の桜まつりは、より地域の商店街や子供たちとの連携を強化し、西多賀地区全体として取り組んでいく予定です。



↑ 観桜期間中の受付の様子

▶子供たちの健全な育成をサポート

子供関連グループを中心に様々な遊びや学びを通じ、世代間交流を図りながら子供たちの健全な育成のための活動を行っています。

9月には、三神峯公園で夜の自然体験を行う「ナイトハイクin三神峯公園」を企画していましたが、当日の天候が悪かったため、西多賀市民センターでLEDランタンの作成や



↑ 一緒に楽しく作業しました

手作り紙飛行機飛ばし、三神峯公園や自然のお話を聞くイベントに変更しました。

子供たちは、委員会やおやじの会のメンバーなどに教えてもらいながら、ランタン作りや紙飛行機飛ばしを行い、三神峯公園の話も夢中になって聞くな

ど、楽しい時間となったようです。

令和3年以降は、地元の小学生と他地区の小学生が、三神峯公園で遊びや学びを通じて交流できる機会をつくり、三神峯公園のPRにもつなげていきたいと考えています。



↑ 上手にランタンができました

事例のポイント

自分たちの住む地域にあるものを改めて見つめ直すことで活用の道が生まれ、そこから地域住民の交流を生み出すことが出来ました。